【学校通信】　令和2年11月30日
第18号

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長
大西　規之

親が子どもをサポートするには（Ⅲ）～こどもを伸ばすには～

前号に引き続き、保護者の子どもへのサポートについて考えたいと思います。今回は「子どもを伸ばすには」です。ぜひ参考にしてください。

塾なしハーバードの母が見た「子どもをダメにする言葉」「伸ばす魔法の言葉」

（現代ビジネスより）

「伸びる子」の家は明るい

母・真理さんによる家庭教育で学習習慣を身につけ、地方公立から留学経験なしでハーバードに現役合格＆首席卒業した廣津留すみれさんは、現在Smilee Entertainment社CEO兼バイオリニストとして、世界を舞台に活躍中です。母・真理さんの話では、1万人以上の親子を見てきた経験から、子どもを「伸ばす親」「そうでない親」の違いとして、はっきりいえる特徴があるそうです。「伸びる子」が育つ家庭に共通する要素。それは、親の学歴でも経済力でもありません。「伸びる子」が育つ家庭の特徴とは、とにかく明るいこと。親御さんの表情が明るいのです。逆に言えば「伸びない子」は、本人もですが親御さんもなぜか表情が暗い。この違いはズバリ、家庭内の会話に、ユーモアと笑顔があるかどうかです。

面談をしていても分かります。「伸びる子」の家庭は、親もよくしゃべるし、子どもも負けずによくしゃべる。それどころか、子どもの発言は親の口真似ではなく、オリジナリティがあるので、話が討論になって発展していったりします。日頃から、親子で心をオープンにした本音の意見の交換をできているからこそです。

大事なのは「失敗できる」安心感

なぜユーモアが大切かというと、ユーモアは、失敗を笑い飛ばせるくらいの心の余裕から生まれるからです。「どうして○○できないの」「○○できないなんてダメじゃない」と、失敗を一つ一つカウントしていく「減点方式」の家庭は、途端に笑顔がなくなり、暗くなります。そういう家庭で育った子どもは、「失敗したくない」という気持ちが先に立ち、間違えを極端に恐れるようになります。「失敗なんてしないで育ったほうがいいんじゃないの？」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、失敗を恐れて育つことの問題は、「間違えるくらいなら何もしないほうがいい」と、新しいことへのチャレンジをしなくなってしまうことです。新しい挑戦をして小さな達成感を積み重ねたり、自分の得意を見つけたりする機会のないまま、「どうせ私の意見なんかたいしたことない」と、低い自己肯定感が一生モノになってしまうのです。

一方で、笑顔とユーモアがある家庭の子どもは、安心して失敗したり間違えたりできます。「間違ってもOK。あとで修正すればいいのだから」と、自分の考えや主張を親や先生といった周りの大人たちに堂々とアピールできます。このコミュニケーション能力や自己肯定感が、のちのち社会に出てから大きな支えになることは言うまでもありません。なぜなら、世の中に一人でできる仕事はなく、自分の得意を差し出して、相手に苦手をフォローしてもらう、という関係性を築くためには、いわゆる“かわいげ”があることがマストだからです。“かわいげ”は、どんなに優秀でも、それだけでは生まれません。失敗も笑い飛ばせるようなユーモアある関係性に育まれて、初めて身につけられるものなのです。

子どもが変わる魔法の言葉がけ

「え、今さらユーモアなんて」「子育てにユーモアが必要なんて聞いたことない」という声が聞こえてきそうです。けれど、何も芸人さんみたいなお笑いを披露しろ、ということではないし、もちろん駄洒落を言えばいいわけではありません。ユーモアとはつまり、会話に緩衝材、クッションがあるということです。どうしたら家が明るくなるのか分からない、という方のために、今すぐできる方法をお教えしましょう。否定文で考えたら、肯定文に変換して言葉がけすることです。いわゆるリフレーミングです。たとえばこうです。

否定文「こんなこともできないなんてダメじゃない！」
→肯定文「これができたらもっとすごい子になるね！」
否定文「なんで算数のテスト、70点しか取れなかっ

たの？」
→肯定文「お母さんなんて昔、いつも50点しか取れなかった。すごい！」
　ユーモアが成立するにはまず、相手を幸せな気分にしたいという愛情、発言を笑顔で受け止める包容力が必要だということです。それにプラスして、同意語・反意語・派生語など豊富な語彙を駆使できる教養、その場の文化や慣習を察知して瞬時に応用する瞬発力もあるとベスト。ストレートに否定せず、クッションをはさむ。減点方式をやめて、笑顔で全肯定する。これを毎日積み重ねているだけで、家庭は確実に明るくなり、子どもは劇的に変わります。
　未来を生きる子どもたちは、可能性のかたまりです。大人に遠慮して空気を読むことなく発言したり行動したりできると、子どもたちは自分の可能性を存分に伸ばせるのです。そこで大切になってくる子育てのスキルが、ユーモアというわけです。このスキルを磨くためには、大人である私たちも、日々、自分を磨くための学びを続けなければならないのです。

勉強、受験に関する格言（Ⅱ）

１　努力は才能を超える
２　あきらめなければ道は開ける
３　やる気があるときなら、誰でもできる。本当の成功者は、やる気がないときでもやる
４　一生懸命だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言い訳が出る
５　学べば学ぶほど、自分が何も知らなかったことに気づく　気づけば気づくほど学びたくなる
６　合格したからといって未来が約束されるわけではないが、合格するまでの努力と経験は未来でも必ず役に立つ
７　努力した者が全て報われるとは限らん。しかし！　成功した者は皆すべからく努力しておる！！
８　地道な努力こそが最大の近道と知れ！！
９　踏まれても叩かれても努力さえ続けていれば必ずいつかは実を結ぶ

ホームページを適宜更新中！！

